

支援だより

福岡県立筑後特別支援学校

2021 (令和3) 年度 支援だより 第4号

2022 (令和3) 年9月13日発行

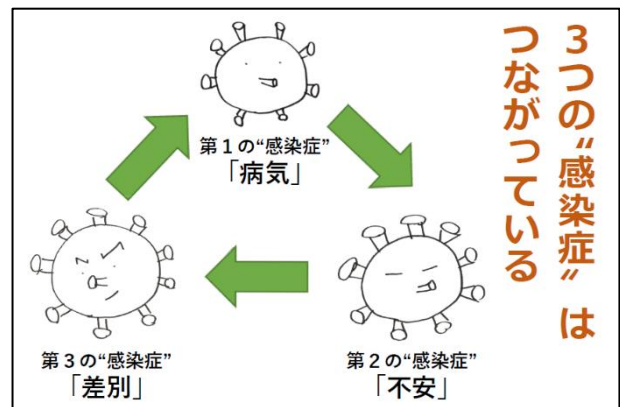
新型コロナウイルスの関する差別・偏見を 生まないために

新型コロナウイルス感染症の影響による差別事象が、残念ながら全国各地で報告されています。今号では、日本赤十字社が作成した資料を参考に、新型コロナウイルスに関する差別・偏見について考えていきます。

① 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」

日本赤十字社は、『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』という資料を作成しています。

その中で、新型コロナウイルスには、「3つの“感染症”という顔」があるとしています。それは、「病気」「不安・恐怖」「差別・偏見」です。この「3つの“感染症”」は、右の絵の



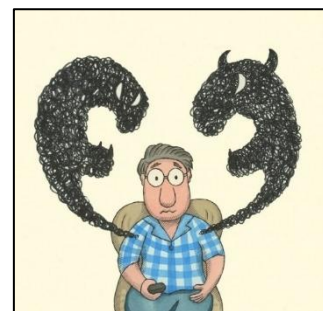
日本赤十字社のHPより抜粋

ようにつながっていて、「病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながる」と説明しています。資料の最後は「みんなが一つ」になって、「3つ“感染症”」のつながりを断ち切ることを訴えています。

では、「3つの“感染症”」特に「差別・偏見」に対して、わたしたちができることは何でしょうか。

②「ウイルスの次にやってくるもの」

「差別・偏見」が生まれる原因は、誰もがもっている「不安・恐怖」です。日本赤十字社は、「不安・恐怖」から「差別・偏見」を生まないための資料として、『ウイルスの次にやってくるもの』という3分くらいの動画を作成しています。



日本赤十字社のHPより抜粋

動画の中では、「恐怖に自分が飲み込まれる」ことで、「差別・偏見」が生まれると説明しています。そして、「恐怖に自分が飲み込まれる前にできること」として、四つのメッセージを出しています。

【恐怖に餌を与えない】 ときにはパソコンやスマホを消して、暗いニュースばかりを見すぎるのはやめよう。不確かな情報を、うのみにしないで、立ち止まって考えよう。

【恐怖のささやきに耳を貸さない】 恐怖は、話を大げさにして、おびえさせる。誰にもまだ分からないことは、誰にもまだ分からないことでしかない。そのままを受け止めよう。

【恐怖から距離を取る】 非難や差別の根っこに、自分の過剰な防衛本能があることに気づこう。冷静に、客観的に、恐怖を知り、見つめれば、恐怖はうすれていくはずだ。

【恐怖が嫌がることをする】 恐怖が苦手なものは、笑顔と日常だ。家族や友人と電話して、笑おう。いつものように、きちんと食べて、眠ろう。恐怖は逃げていこう。

そして、最後に次のようなメッセージで結ばれています。

「恐怖は、誰の心の中にもいる。だから励ましあおう。応援しあおう。人は、団結すれば恐怖よりも強く、賢い。恐怖に振り回されずに、正しく知り、正しく恐れて、今日、わたしたちにできることを、それぞれの場所で」

二つの資料は、昨年作成されたものですが、資料が伝えている「本当に戦わなければならない相手は『人』ではなく『ウイルス』」というメッセージは、今も大切にしたいものだと考えます。紹介した資料は日本赤十字社のホームページで見ることができます。

『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』

URL https://www.jrc.or.jp/saigai/news/200326_006124.html

『ウイルスの次にやってくるもの』

URL <https://www.bs.jrc.or.jp/th/bbc/2020/06/post-146.html>